

令和3年度 附属学校園研究支援・特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	附属旭川「12年教育」の実現 －多様な人と関わり、豊かな人生を切り拓く人材の育成〔中学校編〕－
事業実施代表者名	附属旭川中学校長 上田 祐二
実施附属学校名	附属旭川中学校
事業内容 (実施内容について、 1,000字程度で記述)	<p>これまで旭川地区で進めてきた幼小中の「12年道徳」を、今般求められるグローバル化・ダイバーシティ社会への対応を踏まえて取組を拡充するものである。</p> <p>これまで実施してきた「道徳適正」に加えて、変化の激しい世の中で、グローバル人材としてたくましく生き抜く力に関わる「GRIT」や「非認知能力」の育成を目指し、最終的には幼小中が連携し、園児児童生徒の成長を総合的に的確に記録化し、把握するための“新しい通知表”に関わる調査・研究である。</p>
成果と課題 (活動の成果と課題について、500字程度で記述)	<p>1 「道徳適性検査」については、R4、1月に実施し、結果の分析を業者に依頼中である。 参考：(R2 同調査) 思いやり：94%、命：78%</p> <p>2 「GRIT」や「非認知能力」の育成について、今年度当初から、月に2回の研究に関わる会議において定期的に扱ってきた。</p> <p>①指導する側の教員の理解促進 計：21回の研修</p> <p>②指導計画との関連、位置付けの確認 ・教科の指導計画・評価計画への位置付け ※第3観点との関連を検討</p> <p>③指導と評価、検証サイクルの構築 ・前期・後期、中間の3回の評価・評定の妥当性の検証</p> <p>④生徒及び保護者向けの啓発活動 ・生徒向け：学年・学級の立ち上げ、学級活動、道徳の時間 ・保護者向け：学年懇談資料、3者面談時、2者面談時</p> <p>3 幼小中の12年間を見取るシートの開発 ・幼小中で、育むべき資質と、それらを見取る場面などの洗い出しを行い、副校長による協議を行い資料を収集している。</p>
今後の発展性 (残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500字程度で記述)	<p>1 扱っている会社は異なるが、小学校においても実施している「道徳適性検査」の結果及び分析とあわせて、長期的なスパンで児童生徒の育ちや実態をモニターすることが大切であり、小中連携の中に組み込み、可視化できるデータを相互の教職員間でも共有し、共通理解することが望まれる。</p>

	<p>評価指標を「主として自分自身に関わること」の「向上心」に変更する。</p> <p>2 教員の理解促進が重要であり、様々な教育活動において、「非認知能力」と関連付けられるようにすることが欠かせない。また、そのための研修機会を定期的に設定することも不可欠である。</p> <p>3 「コロナ禍」において、生徒に対しても保護者に対しても、対面で説明・理解を図る機会が制限される中にあり、厳しい状況がある。今後は、映像配信など、説明や啓発機会を工夫する必要がある。</p>
<p>事業の公表状況 (事業をHPで公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入)</p>	

(注) 当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。

支出実績額内訳

(附属学校名 附属旭川中学校)

区 分	予算額	支出実績額	内訳 (簡潔に記載すること)
旅 費	千円	千円	
謝 金			
備 品 費	249	249	ノートパソコン1台 146,080円 ビデオカメラ1台 103,213円
消耗品費	273	273	道徳適性検査 @500×317人 158,500円 SDカード10枚 77,000円 外付けHDD1台 29,370円 コピー用紙 7,837円
そ の 他			
合計	522	522	